

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

|                    |                                                                                                                                                                             |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教員氏名               | 井ノ上 了吏                                                                                                                                                                      |
| 主な担当科目             | 声楽,ヴォーカルテクニックメソッド                                                                                                                                                           |
| 2025年の教育目標・授業に臨む姿勢 | 声楽コース・声とことばの創造コースにおいて、基礎的な発声方法と各言語の発語法をしっかりと理解させることを教育目標とする。そのために理解しやすいロジックを用いて繊細な説明繰り返し実施し授業・レッスンに臨む。また大学院のオペラ、声楽研究では、より高度な演奏技術・研究について指導に当たることを教育目標とする。                    |
| 2025年の教育に関する自己評価   | 声楽コースの生徒には、基礎的な発声方法と各言語の発語法をしっかりと理解させることを教示し成果を上げた。声とことばの創造コースの生徒にはそのために理解しやすいロジックを用いて、基本呼吸法を中心に声とは何かを教示し、理解させせいかをあげた。大学院のオペラ、声楽研究では、より高度な演奏技術・研究について個々の研究内容を即して教示し、成果を上げた。 |
| 2025年のFD活動に関する自己評価 | 声とことばの創造コースの主査としてFD合同研修会/声楽部会/声とことば分科会FD/大学院FDなどに参加し授業設計と学修成果の可視化、学生支援の体制を点検を実施し、共有事項を授業運営・指導に反映し、質保証と安全な学修環境の整備に努めた。                                                       |
| 授業改善のために取り入れた研修内容  | 研修で得た「到達目標の明確化」・「評価基準の共有」・「学修状況に応じたフィードバック」・課題設計・ループリック運用・面談記録の整備を取り入れ、学習支援の質向上につなげた。                                                                                       |

## 2025 年度(春学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2623 教員名:井ノ上 了吏

### 1)アンケート結果に対する所見

学生の出席率は高く、授業への関心も概ね良好であった。教育到達目標の理解度や達成度についても「そう思う」「少しそう思う」が多数を占めており、授業内容・レッスン内容が学生の学びに貢献していることが確認できた。一方で、授業外学習時間にばらつきが見られ、学習習慣の定着には課題が残る。基本的学修成果の効率も向上させる為に理解しやすい論理的説明を強化する。

### 2)要望への対応・改善方策

学生からの自由記述や選択肢回答を踏まえ、以下の改善を検討する：

- 授業外学習の促進のため、次回より課題提出の頻度と質を調整するとともに、予習・復習のガイドラインを明示し、理解を深める。
- シラバスの内容と授業の関連性をより明確にするため、毎回の授業冒頭で到達目標を確認する時間を設けるとともに、フィードバックを徹底する。
- 声楽や、声とことばの創造コース、実技指導においては、個別フィードバックの時間を増やし、学生の自己表現力向上を支援する。

### 3)今後の課題

- 授業外学習時間の確保と習慣化を促す仕組みづくりと、その役割を理解させる。
- 学生の多様な学習スタイルに対応するための教材の工夫、学習法のデジタル化を推進する。
- 教育到達目標の達成度をより定量的に把握するための評価方法を見直し、実施する。

以 上